

平成26年度 修了式 校長式辞

「次の船出へ」

おはようございます。いよいよ平成26年度修了式の日を迎えました。1年の締めくくりに当たり「次の船出へ」というお話をします。

学校生活を船の航海に例えると今日は、去年の4月に船出をした船が1年間の航海を終えて目的地の港に到着する日です。この1年を振り返ると穏やかな日もありましたが、雨や嵐の日もありました。このままでは沈むのではないかと心配したこともありました。それでもみなさんが一生懸命頑張ってきてくれたおかげで今日を迎えることが出来ました。卒業式でも話しましたが、私は、今年1年「変わる」ということを言い続けてきました。卒業生代表の有馬さんが卒業生の言葉の中で「今の私たちは変わりました」と言うのを聞いた時、この1年間のことがいろいろ浮かんで思わず涙が出ました。

みなさんはどうですか。この1年で私から様々な話をしましたが、私が言いたかったことは一つです。それは失敗したり、間違えてもいい、でもそれを次に活かしてよい意味で変わろう。今やることに全力を尽くしてそれを繋げて次へのステップにしようということです。

今日で一旦、船は港に入ります。春休みは一番短い休みですが、一番大切な休みです。そこでみなさんに重要な二つの任務を授けます。一つは振り返るとい

うこと、今年1年を振り返り、成長できた点、まだ足りない点をよく考えてください。

二つ目は次の航海すなわち来年度1年間の目標を考えることです。

2年生は、4月からは最上級生として中学校最後の船出をします。1年生は後輩を迎えて中堅学年としての新たな航海が待っています。でもやみくもに船出をするのは大変危険です。それはまた1年間の長い航海になるからです。長い航海をするには準備が必要です。目標という名の荷物を春休みの間に用意してください。スモールステップで頑張ること、各学期ごとにやり遂げること、1年間で達成すること・・・自分の中で目標を立ててください。1年間の新たな船出となりますが、共に頑張っていきましょう。4月に元気に会いましょう。

平成26年度 第68回卒業証書授与式 式辞

春光天地に満ち渡り、木々も芽吹き始めたこの佳き日に、朝霞市長富岡勝則様、朝霞市教育委員会生涯学習部長島村幸広様を始め多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、またかくも多くの保護者の皆様にご列席をいただき、平成二十六年年度本校第六十八回卒業証書授与式が挙行できますことに心より感謝申し上げます。式典に際しまして一言申し上げます。

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。只今二百五十八名のみなさん一人ひとりに卒業証書をお渡ししました。今みなさんが手にしている一枚の証書は小学校と合わせて九年度の義務教育が修了した証です。その一枚には、みなさんがランドセルを背負って初めて小学校の門をくぐってからこれまでの9年間の生活の思い出と友達や支えてくれたご両親、先生の思いや願いが詰まっています。どうかその重みを感じてください。

さて三年生のみなさん、君たちとはたった一年の付き合いでした。でも大変濃い一年を過ごさせてもらったなと思っています。

一年前の四月に君たちに初めて会った時、私は「変わる」という話をしました。覚えていますか。そして六月には、あたりまえのことをしつかりやろうと「凡事徹底」あたりまえ十か条を出しました。時には私自身が直接厳しく叱ることもありました。私はこの一年、君たちと真剣に向き合ってきたつもりです。そして私以上に君たちのことを考えて、時には裏切ったり、反発されても最後まで粘り強く面倒を見続けてくれた三年生の先生方がいました。さらには君たちの中からもしつかりやろうと声を上げる人が大勢出てきました。その結果この一年で君たちは着実によい方向へ「変わる」ことができたと思います。一学期の頃よりも二学期、三学期と大き

く成長してくれました。そのことは先生方や保護者の方々はもちろんですが、みなさん自身が一番分かっていることだと思います。

そして今日の卒業式を迎えることとなりました。いつも私が言っていたことですが、「学校生活は点ではなく線だ」「今やるべきことをしっかりとやってそれを次に活かそう」このことはこれからの生活でも一緒です。みなさんは今日で中学校生活のゴールを迎えましたが、それは当然、新たな生活のスタートでもあります。先日、最後の学校朝会で「学校の階段は上りの一方通行だ」と話しましたが、みなさんの前には新たな階段が待っています。と言うよりもこれからは、その階段はみなさんが自分自身で一段一段積み上げていくものです。みなさんの中には希望通りの進路に進む人も、そうでない人もいます。でもいつか話したように高校や専門学校に受かることや就職を決めることがゴールではありません。そこから始まる新しいことを最後までやり遂げることが大切なのです。今やるべきことに全力を尽くし、そしてそれをさらに次のステップに繋げていくこと、人生はその繰り返しなのだと思います。

それではその次のステップを踏もうとしているみなさんへの饒に私から中学校生活最後のお話をします。これは同時にこれから一中を背負っていく在校生のみなさんへの話でもあります。聞いてください。

今日は「心の鏡」という話です。みなさんは毎日、鏡を見ますね。髪型や身なりを正すために人は鏡の前に立ちます。鏡は正直です。ありのままの姿をありのままにそこに映し出します。自分のネクタイは曲がっていないと頑固に言い張る人がいても鏡を見れば一目瞭然です。だから人はそのあやまちを認め、これを正します。身なりや髪形は鏡で正せるとしても鏡はその人の心のゆがみまでは映し出しません。だから人はとにかく自分の考

えや振る舞いのあやまりを自覚しにくいのです。「心の鏡」がないのだから無理もないといえはそれまでですが、実は求める心、謙虚な心があれば「心の鏡」はどこにでもあるのだと思います。自分の周囲にある物、周りにいる人、これらはすべて自分の心を映す「心の鏡」です。全てのものがわが心を映し、全ての人がわが心に繋がっているからです。これから一中を巣立っていく卒業生のみなさん、そしてそれを引き継ぐ在校生のみなさん、どうか自分の周囲をよく見る目を持ってください。どうか周囲の人の声に耳を傾けてください。その謙虚な心、素直な心があれば、人も物も「心の鏡」となって自分の考えや行動が正しいかどうかを映しだしてくれるのだと思います。人間の本当の価値は勉強が出来るとか、お金をたくさん持っているとかで決まるものではありません。本当に大事なものは「心」です。ときどき、「心の鏡」を見ることを意識してください。みなさんのこれからの心の成長に期待しています。

保護者の皆様に申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうござい
ます。大きく成長されたお子様の晴れ姿をご覧になり、感慨もひとしおの
ことと存じます。私ども教職員一同、皆様からお預かりした大切なお子様
の健やかな成長を目指して、三年間全力で教育活動に取り組んでまいりま
した。二年生の後半から一部落ち着かない時期もありましたが、子供たち
の心に寄り添うことを大切にして、最後まで見放さずに真剣に考え、真剣
に心配し、真剣に思いを伝えてまいりました。その結果、子供たちとの心
の絆が深まり、今年度学校教育目標に加えた「信頼」を築くことが出来た
と自負しております。保護者の皆様には、これまで本校の教育活動に深い
ご理解と温かなご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。4月から彼
らが船出する新しい航海に吹く風は、これまでよりもずっと厳しいものに

なります。中学校時代には、学校という特別な空間で守られ、許されていたことも社会や世間一般では通用しないこともあると思います。これからは彼らが自分自身で責任を負わなければならないことが確実に増えていきます。本日皆様のお手元にお子様をお返ししますが、どうか小さな変化も見逃さず、これからも温かく見守っていただきたいと存じます。

最後になりましたが、ご多用の中ご臨席を賜り、卒業生の門出を盛り上げていただいております朝霞市長富岡勝則様を始めとするご来賓の皆様の高い席から誠に恐縮ではございますが、厚く御礼申し上げます。今後とも地域の中で信頼される学校づくりに教職員一同力を合わせて邁進してまいりますので皆様の一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。

卒業生のみなさんの前途に幸多からんことを祈念いたしまして、式辞といたします。

平成二十七年三月十四日

朝霞市立朝霞第一中学校 校長 二見 隆久

3月全校朝会 講話

「学校のカイダン」

おはようございます。今年度も残すところ1カ月を切り、来週は卒業式、3週間後には修了式を迎えます。おとといの卒業式練習、3年生、1・2年生ともしっかりできていましたね。3学期初めの始業式でも話しましたが、いよいよ1年間の仕上げの時です。最後の仕上げをしっかりとやって行きましょう。

そして今日は、本年度最後の学校朝会になりました。毎回色々なお話をしてきましたが、最後の話のテーマは「学校のカイダン」です。と言ってもテレビドラマの話ではありません。朝霞一中の校舎内にはA階段からD階段まで4つの階段があります。みなさんは普段、階段を上ったり下りたりしますね。

でも今日私が話す「学校のカイダン」は上りの一方通行です。その階段はみなさんの日々の学校生活という階段です。学校生活を階段に例えると、その階段は上りの一方通行です。このことは2年生のスキー林間学校のしおりの最初の挨拶にも書きました。

今日よりも明日、明日よりもその次の日とステップアップする、別の言い方をすると「成長していく」みなさんの前にあるのは上りの階段です。

その証拠にみなさんはもうすぐ卒業や進級をします。3年生は中学校を巣立ち、2年生は3年生に1年生は2年生になります。2年生が1年生に下がったり1年生が小学校に戻ったりはしません。そしていつも言っていることですが

学校生活は点ではなく線です。勉強でも部活でも行事でも今やっていることをしっかり取り組んでその成果を次に生かすこと・・・その繰り返しです。例えばスキー林間で学んだことを次の修学旅行で生かしたり、部活の試合で失敗したプレーを次の試合で取り返したり・・・全ては次の段へ登るためにやっているのです。

ところが、中にはわざと階段を降りようとしている人がいます。1年生のときには集中して話が聞けたり、掃除も真面目にできたのに学年が上がるにつれていい加減になったりする人はいませんか。階段の段の高さや角度は人それぞれでいいのですが、一步でも上に登ろうとする気持ちを持ってください。もちろん上りばかりでは疲れるかもしれません。そんな時は降りるのではなく、階段に腰をかけて休めばいいのです。そしてまた元気になったら登り始めてください。

もうすぐ一段、階段を上がろうとしているみなさんを先生方はこれからも応援します。残り少ない3学期みんなでもう一步階段を上りましょう。

終わります。